2016年度 若手教員研究促進交付金(テーマ)一覧

所属	職	氏名	研究テーマ　等　※課題名をクリックすると該当する研究課題の研究成果報告書のページへジャンプします。
初等教育	准教授	市原　学	子どもの潜在的認知に関する基礎研究
	講師	十川菜穂	ピアノ二重奏と小学校音楽教育について
	講師	岡野恵司	岩澤理論、ペアリング暗号に適した楕円曲線構成、数学教育に関する研究
	講師	堤　英俊	知的障害教育の場に通う＜グレーゾーン＞の子どもの生活世界に関する研究
国文	准教授	菊池有希	バイロン受容の日英比較の比較文学的・思想史的研究、近代日本文学・思想におけるカーライル受容の比較文学的・思想史的研究
社会	講師	冨永貴公	生涯学習社会におけるセクシュアリティへの配慮：セクシュアル・マイノリティをめぐる男女共同参画行政の取り組みから
	講師	小島　恵	科学物質関連法の体系的整理、水銀条約の発効を見据えての日本と世界の対応、地域からのエネルギー転換事業
国際教育	講師	ノルドストロム ヨハン	日本初のトーキー映画製作所であるピー・シー・エル（Photo Chemical Laboratory）の歴史的展開と昭和初期に興隆する「モダニティ」という概念と、それに付随する大衆文化についての考察

平成　28　年度　学術研究費等交付金　研究成果報告書

平成 29 年 8 月 31 日

研究者	氏名：市原　学		職位：准教授
	所属(学科等)：初等教育		
研究課題名	子どもの潜在的認知に関する基礎研究		
研究年度	2016　　年度 から　　2017　年度まで		
研究費の種類	若手研究費	交付額	500000 円
研究費の種類	学術研究費	交付額	250000 円

研究概要等

【研究概要】

子どもの潜在的認知について研究を行った。

従来、(特に日本の）心理学研究ではアンケート調査、質問紙研究が数多く行われてきた。質問紙研究とは、ある質問項目（例；あなたは勉強が好きですか）を投げかけて、被験者がどのように答えるか（例；“はい”または“いいえ”）によって、その個人の特性や態度（学習意欲）を測定し、他の特性や態度（例；自尊感情）との関連性を知ろうとする方法である。る。質問紙研究は紙と鉛筆（ペン）があれば実施できるので、研究者に求められる特別なスキルはない。また、質問紙研究は学習、人間関係、価値観、態度など広範な対象の研究に用いることができる。こうした簡便さ、研究対象の広さもあって、質問紙研究は心理学者の間で普及してきた。

しかしながら、古くから指摘されていることだが、質問紙研究は被験者の内省的、意図的な自己報告に依拠しているため、研究内容がデリケートなもの（例；人種差別、弱い者いじめ、男女平等など）であるときには、その回答が社会的に望ましいものに歪曲されるおそれがある（例；“いじめに加担したことがありますか”に対しては、かつていじめをしたことがあるにもかかわらず、“いいえ”と回答してしまう。)。心理測定学の観点からいえば、社会的望ましさは研究者が質問紙で測ろうとしているものではなく（系統）誤差に含まれる。そのため、被験者の反応に社会的望ましさが混入してしまうと、結果的に測定結果の信頼性や妥当性がゆがめられるおそれがある。信頼性や妥当性が低いということは変数間の相関の希薄化を生みだすため、研究仮説が不当に否定されることにもなりかねない。そこで、心理学者は質問紙の中に社会的望ましさを測る項目（例；わたしはうそをついたことがない）を差し込み、その項目に引っかかった被験者（例；“はい”と回答する）を分析から除外することで、データの信頼性と妥当性を確保しようとしてきた。ただし、そうやって被験者を除外していくと、今度は分析の結果が不安定になるというおそれも生じる。

上記の問題をふまえて、1990 年代に潜在認知の測定方法が開発されるようになった。潜在認知とは、さまざまな意味で用いられるが、基本的には“非意図的”という意味が含ま

れる。非意図的とは自分自身気づいていない自分の考え、または“自分では気づいているけれども、他人に知られないように隠している自分の考え”ということである。他方、質問紙で得られた回答について被験者は自分の内省を頼りにしており、自覚があるので顕在認知と呼ぶことがある。

潜在認知の測定方法として代表的なものに潜在連合テスト（Implicit Association Test; IAT）がある。IAT（やその他多くの潜在認知の測定方法）の開発は意味ネットワーク理論や環状ネットワーク理論に依拠している。これらのネットワーク理論ではお互いに意味的に近い概念や、共起関係が強い感情や概念はいずれか一方が活性された場合に、もう一方も喚起、利用されやすいと考える。たとえばコンピュータスクリーン上にいくつかの名詞対（例；“花”と“虫”）と形容詞対（“きれい”と“きらい”）が提示され、名詞対の一方（花）と形容詞対の一方（きれい）について同じ反応（例；キーボードの“I”を押す）を求める。他方で名詞対の残り（虫）と形容詞対の残り（きらい）についても同じ反応（例；キーボードの“E”を押す）を求める。すると、（虫よりも）花に対して好意的な感情を持つ者（いいかえれば花よりも虫のほうが嫌いな者）は、上記の課題において反応が促進される（例；キーボードを早く押せる）。反対に（花よりも）虫に対して好意的な感情を持つ者は反応が抑制される（例；キーボード押しが遅くなる）。IAT ではこのようにして、ある対象（白人、黒人）にどのような感情（好き、嫌い）や態度（よい、悪い）を抱いているかを、対象と感情、態度の連合の強さ（反応の素早さ）をみることで測定しようとする。IAT をはじめとする潜在認知の測定法は従来の質問紙のように対象に対してどのような思いを抱いているかを直接聞いているわけではないので、間接測定とも呼ばれる。潜在認知の測定法のメリットはそれを受けている者が実際に何を測定されているか明確に把握できないので、顕在認知のような社会的望ましさの影響を排除できる点にある。事実、質問紙と IAT で白人から人種的な平等意識のデータを集め、彼らが黒人に対してどのようにふるまうのかを予測したところ、IAT（潜在認知）のほうが（顕在認知よりも）予測力が高かったという結果が得られている。

こうした有用性から現在では IAT をはじめとする潜在認知の測定は広く行われるようになってきた。たとえば、自尊感情については、質問紙と IAT の間の相関は低いこと、質問紙および IAT それぞれ単独ではなく、これらを組み合わせること（顕在的自尊感情は高いものの、潜在的自尊感情が低い者、つまり内心自信がないが強がっているタイプ）で自己愛傾向を予測できることなどが明らかにされた。

ただし、既存の研究はそのほとんどが大学生以上の成人を対象にしたものであり、より年少の子どもの潜在認知を扱った研究は希少である。潜在的認知が実際の行動を予測し、それが人種差別のような時に社会的に重大な問題を引き起こすのであれば、その形成や発達過程に注目し、適切に介入を行っていくことは重要であろう。それでもこれまで潜在認知に関する発達研究が行われてこなかった理由は、年少児童はコンピュータ、とりわけキーボードの操作に不慣れであること、大人ほど流暢に文字が読めないことなどが挙げられる。このようなコンピュータまたは言語リテラシーが反応を左右するとなると、やはり潜

在測定の信頼性や妥当性が脅威にさらされることになるので、長らく子どもを対象にした潜在認知の研究は行われてこなかった。

ところが、近年コンピュータに提示される文字を絵（花、虫）や顔写真（白人、黒人）に差し替えたり、反応をキーボードではなくゲームコントローラーに切り替えたりすることで、子ども向けの IAT が開発された。そのうえで、IAT と質問紙で人種的な平等意識の発達を検討したところ、（白人の）IAT への反応は幼少期から成人期まで変化がみられなかった（つまり白人に対する選好を示した）。一方で顕在認知については幼少期では白人に対する選好がみられたものの、成長するにつれて平等的な反応にシフトしていった。この結果をみると、人は成長するにつれて表面上は平等的な態度を示すようになるものの、こころの底では人種差別的な意識が根強く残っていることを示唆している。さらには幼少期において既に人種差別的な態度が醸成されてしまっているということも意味している。

ただし、これまで行われてきた潜在認知の発達研究は人種的ステレオタイプに関するものが数件あるのみで、他の心理学的概念については見当たらない。そこで本研究では“自尊感情”に着目し、その潜在的、顕在的認知の発達過程を検討することにした。日本人の場合、欧米に比べて幼少期から大人まで一貫して顕在的自尊感情は低いことが報告されている。これについては原因帰属理論や文化的自己観から考察されているが、いずれも基本的には日本人は本当にこころの底から自分に自信がないという見解である。しかしながら、日本人の自尊感情の研究はいずれも質問紙研究であり、社会的望ましさの影響があることは否定できない。

そこで今回は子ども用の潜在的自尊感情を測る IAT を開発することにした（成人用 IAT については日本語バージョンが存在する）。対象刺激としては顔写真（自分とほぼ同年齢の他人）、音声による態度提示（よい、悪い）を行う。刺激に対する反応にはゲームコントローラーを用いる。実験の教示は、コンピュータスクリーン上に平易な文章で提示するとともに、研究者が読み上げることとする。現在までに IAT のプログラムは組みあがっており、数名の子どもに実験を実施した。基本的な動作確認は終了し、今後は多くの子どもに IAT 実施することでその信頼性と妥当性を検証し、潜在的自尊感情の発達過程を明らかにしていきたいと考える。

平成 28 年度　学術研究費等交付金　研究成果報告書

平成 29 年 11 月 17 日

研究者	氏名：十川 菜穂		職位：講師
	所属(学科等)：初等教育学科		
研究課題名	ピアノ二重奏と小学校音楽教育について		
研究年度	平成 28 年度		
研究費の種類	若手教員研究促進交付金	交付額	500,000 円
研究費の種類	学術研究費交付金	交付額	250,000 円

研究概要等

【研究概要】

１．ピアノ二重奏「ピアノデュオ・パリ・プラハ(PPP)」のリサイタル開催

・日時：平成 28 年 9 月 22 日(木・祝)

・場所：東京オペラシティリサイタルホール

・プログラム

シャブリエ：エスパーニャ（2 台）

ドビュッシー：4 手のための交響曲 ロ短調

マルティヌー：2 台のピアノのための幻想曲

フンメル：2 台のピアノのための序奏とロンド op.posth.5

スメタナ：「我が祖国」より “モルダウ”（1 台 4 手）

ラヴェル：ラ・ヴァルス（2 台）

古典、ロマン、近現代の各時代や作曲家の様式に副った音楽の構成、表現法を追及した。オーケストラ曲からの作曲家自身による編曲作品(マルティヌーとフンメル以外)については、オーケストラの響きを参考にしつつも、ピアノならではの演奏効果を求めた音作りを行った。尚、月刊誌「音楽現代」平成 28 年 12 月号にその演奏批評が掲載された。「複雑なモチーフが絡まり合い、方向性を形成するのが困難な作品だが、丁寧な表現」(ドビュッシー)、「セクション毎の描写が明確で息の合った演奏」(マルティヌー)、「華やかさの中に気品がある佳演」(フンメル)、「多彩な音色でうねりを表出」(スメタナ)、「鮮やかなテクニック」(ラヴェル)など。

２．小学校における音楽の授業についての研究

都留市立宝小学校の協力を得て、5 年生のクラスで 6 月と 7 月の 6 回にわたり音楽の授業の実践をした。授業の詳細や児童の様子、アンケートの回答等をまとめた論文「小学校音楽科学習指導要領の目標を実現するための教育の在り方に関する一考察 ― 学校教育の現場における音楽教育プロジェクト『宝小プロジェクト 2016』の実施を通して」は、本学研究紀要第 85 集に掲載された。

平成 28 年度　学術研究費等交付金　研究成果報告書

平成 29 年　9 月　10 日

研究者	氏名：岡野 恵司		職位：講師
	所属(学科等)：初等教育学科		
研究課題名	岩澤理論，ペアリング暗号に適した楕円曲線構成，数学教育に関する研究		
研究年度	28　年度 から		28　年度まで
研究費の種類	学術研究費交付金	交付額	250000 円
研究費の種類	若手教員研究促進交付金	交付額	500000 円

研究概要等

【研究概要】

学術研究費交付金，若手教育研究促進交付金を活用して，岩澤理論に関する研究，ペアリング暗号に適した楕円曲線の構成問題，数学教育研究に取り組んだ．

岩澤理論方面については, 村上和明氏と代数体の 多重 Z_p-拡大に関する岩澤理論について共同研究を行った．現在もこの研究は続いており，現在のところ，扱うべき問題の核心部分を突き止め，その解析に必要な数学的道具を揃えつつある過程であり，定期的な意見交換・勉強会を行っている．この研究の一環として，先行研究として村上氏の結果の精査を行い，氏の論文作成に関して助言を行った．また国内の研究集会に積極的に参加して，岩澤理論研究者と情報交換を行い，岩澤理論の進展について学んできた．

暗号理論方面においては，昨年度末に得た自身の研究成果を論文として学術雑誌に投稿した．また，東京理科大学などの研究集会，談話会にて自身の成果を発表した．この研究については今後の発展が期待される．

昨年度に引き続き報告者は算数・数学教育についても研究，考察を行った．数学が苦手な生徒，そして教員自身のどちらもが数学を楽しめる題材や授業内容の構成に取り組んだ．今年も多くの教材を使い，授業に活用したり新たな教材開発・研究に取り組んだりした．またこの研究のために，東京理科大学施設「数学体験館」，パナソニックセンター東京「リスーピア」の見学をさせていただいた．以上の結果の一部は，本年度の教員免許状更新講習「数学の基礎としての算数」の題材として用いられた．

【論文】K. Okano, Note on families of pairing-friendly elliptic curves with small embedding degree, JSIAM Letters 8 (2016)

【講演】 ペアリング暗号に適した楕円曲線族の構成に関する報告，2016 年 10 月，東京理科大学談話会　　など

平成２８年度　学術研究費等交付金　研究成果報告書

平成２９年８月９日

研究者	氏名：堤　英俊		職位：講師
	所属（学科等）：初等教育学科		
研究課題名	知的障害教育の場に通う＜グレーゾーン＞の子どもの生活世界に関する研究		
研究年度	平成２８　　年度 から		年度まで
研究費の種類	若手教員研究促進費	交付額	500,000 円
研究費の種類		交付額	円

研究概要等

【研究概要】

本研究の目的は、知的障害教育の場に通学する＜グレーゾーン＞の子どもたちが、どのような生活世界を生きているかについて社会学的に解明することにあった。

具体的には、まず基礎的な研究として、①国内外における発達障害と軽度知的障害の概念、および日本の学校文化における知的障害教育の場の位置を思想史的に検討し、知的障害教育の場の置かれている制度的・構造的条件を明らかにした。その上で、②＜グレーゾーン＞の子どもたちの在籍する特別支援学級（中学校２校）と特別支援学校（４校）においてエスノグラフィック調査を展開し、彼（女）らの生活世界について考察した。

①の研究については、日本の通常教育の場における「発達障害の子ども」としてカテゴリー化される者たちに着目しながら、近年の知的障害教育の場への転入増加の構造について検討した。要因には３つを挙げることができ、第１に、近年の通常教育の場における異質な他者への排他性の強まりで、発達障害の子どもが、通常教育の場に居場所を見出せないこと、第２に、中学卒業後、発達障害の子どもは、通級指導教室や特別支援学級などの個別抽出の形での補償教育を利用できないことを承知の上で、通常高校に進学するか、特別支援学校に進学するかの選択に迫られること、第３に、昨今の通常高校においては、卒業後に、安定的な就職を得ることが難しくなってきている反面で、知的障害特別支援学校の高等部の方は、なんとか就職先とのパイプラインを維持しながら手堅い進路指導を続けていること（ただし、福祉就労を含む）が見出された。

②の研究については、６名の事例に対して横断的分析を行い、知的障害教育の場に転入した＜グレーゾーン＞の子どもの学校経験とそれを方向づける制度的・構造的条件について明らかにした。各事例に個別性はありつつも、知的障害教育の場への転入に起因する葛藤についてはかなりの程度の共通性が見られた。彼（女）らは、このような状況下でも、「学業達成に対する教師の関心の薄さへの異議申し立て」、「＜グレーゾーン＞のピアグループへの参加」、「通常教育の場との交流場面のやりすごし」、「知的障害教育の場の公式の設置目的とは異なる用途での利用」という４つの生活戦略を行使していた。

平成　２８　年度　学術研究費等交付金　研究成果報告書

平成　２９　年　８　月　７　日

研究者	氏名：菊池有希		職位：准教授
	所属(学科等)：国文学科		
研究課題名	１．バイロン受容の日英比較の比較文学的・思想史的研究 ２．近代日本文学・思想におけるカーライル受容の比較文学的・思想史的研究		
研究年度	２０１６　　年度 から　　２０１６　年度まで		
研究費の種類	若手教員研究促進交付金	交付額	５００，０００円
研究費の種類		交付額	円

研究概要等

【研究概要】

１．バイロン受容の日英比較の比較文学的・思想史的研究

科研費若手研究Ａ採択研究課題である本研究は、日本におけるバイロン受容のありようと、イギリス本国におけるバイロン受容のありようとを対比し、日英それぞれにおけるバイロン受容の特殊性と普遍性、及び、バイロンの文学的・思想的可能性を明らかにすることを目的とするものであるが、四年計画の初年度に当たる当該年度は、本研究全体を遂行するための基礎的な作業を行なった。日本におけるバイロン書誌のデータベースの作成については、明治期から昭和前期までの日本におけるバイロン関連文献を調査、収集し、整理中である。まだ、発表する段階には至っていないが、可能な限り完成度の高いデータベースを作成するため、引き続き調査・収集・整理を行なってゆく。

イギリスにおけるバイロン言説の文献探索・収集・整理については、正直なところ、あまり進まなかった。イギリスにおけるバイロン受容のありようの全体像を把握するため、特にヴィクトリア朝期のイギリス文学におけるバイロン受容の問題について論じた二次資料の読み込みに終始した。

また、上記の作業と同時並行的に、「バイロンを閉じよ、ゲーテを開け」という有名なことばを残し、バイロニズムの超克の必要性をいち早く主張していたカーライル作品の精読を行なった。そこで明らかになったのは、カーライルが、超克すべきバイロニズムを自我意識の過剰と捉えつつ、同じく自我意識の過剰を促す量的快楽主義（ベンサム流の功利主義）の思考形態と重ね合わせて見ている、ということである。この、バイロニズムとベンサミズムを重ね合わせて見るカーライルの見方は、バイロン理解・バイロニズム理解としてはやや乱暴なものと言わざるを得ず、このような理解が発生した文脈、またこれがイギリスにおけるその後のバイロン受容・バイロニズム理解に与えた影響などを精査してゆく必要を確認できた。

２．近代日本文学・思想におけるカーライル受容の比較文学的・思想史的研究

この研究は、上記「１」の研究の一環としても行なわれたものであるが、昨年度に引き続き、北村透谷、バイロン、カーライルの間に見られる複合的な影響関係（「交響する影響」）のありようについて精査を行なった。具体的には、バイロンの『マンフレッド』から多大な影響を受けている透谷の劇詩『蓬莱曲』を取り上げ、そこにおけるカーライルの『サーター・リザータス』受容の痕跡を確認し、「交響する影響」を可能にする論理を明らかにする作業を行なった。

その作業で明らかになったのは、カーライルが『サーター・リザータス』の中で展開した、ベンサミズムによる社会への破壊的な悪影響のイメージを、透谷が『蓬莱曲』の中に受容していたということである。カーライルは、人間精神を機械化してしまうベンサミズムが猖獗を極める状況を近代文明の結果と見、それをロマンティシズムによって超克しようと試みたわけだが、透谷もこのカーライル流の「ロマン主義による近代の超克」の方法とイメージに倣い、『蓬莱曲』を書いたのであった。

来年度、今年度明らかにした上記の研究結果をもとに、バイロン受容の問題とも関連づけて、「１」の研究に還元していきたいと考えている。

【学会発表、書籍収録等】

〈学会発表〉

・菊池有希「北村透谷『蓬莱曲』とカーライル『サーター・リザータス』」（日本比較文学会第７８回全国大会、於東京大学駒場Ｉキャンパス、２０１６年６月１８・１９日）

平成 28 年度　学術研究費等交付金　研究成果報告書

平成２９年　８月１８日

研究者	氏名：冨永貴公		職位：講師
	所属(学科等)：社会学科		
研究課題名	生涯学習社会におけるセクシュアリティへの配慮：セクシュアル・マイノリティをめぐる男女共同参画行政の取り組みから		
研究年度	平成 28　　年度 から		平成 28　年度まで
研究費の種類	若手教員研究促進交付金	交付額	500,000 円
研究費の種類		交付額	円

研究概要等

【研究概要】

今日、同性間のパートナーシップを認める動きが日本全国に拡大しているが、それらは「LGBT」（レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字）当事者たちの動きと連動しながら、セクシュアル・マイノリティが学校、家庭、地域に存在していることへの配慮を求めるものである。このような状況において、近年、男女共同参画行政の分野では、セクシュアル・マイノリティに関わる教育・学習事業が多く展開されている。

本研究は、このようなセクシュアル・マイノリティに関わる啓発の機会を提供する男女共同参画行政の到達点と課題を考察し、生涯学習社会におけるセクシュアリティへの配慮の指針を提起しようとするものである。

今年度は以下２点の研究、および、研究遂行に求められる条件整備を行った。

（１）男女共同参画行政における事業は、教育・学習をおこなう社会教育のそれと区分されて、「啓発」として行われている。しかし、教育・学習と啓発の二分は、それを受け止める地域住民にとってそれほどの意味はない。教育と啓発をめぐる男女共同参画事業の意義について、とりわけ、地域住民の視点から現状の整理を踏まえた原理的考察を行った。

（２）男女共同参画関連施設を含め生涯学習・社会教育施設で行われるセクシュアル・マイノリティ関連事業ついての資料・情報、同性間のパートナーシップを保障する条例を策定している自治体の政策資料、セクシュアリティに関わる女性学・ジェンダー研究、クイア研究の文献・資料の収集を行い、検討した。

これら本年度の成果を踏まえ、次年度には、男女共同参画関連施設の事業内容に関わる検討を行いたい。

【学会発表、書籍収録等】

・冨永貴公・池谷美衣子「男女共同参画関連施設の啓発事業を『教育化』する意義」『都留文科大学研究紀要』第 85 集、2017 年 3 月。

平成　28　年度　学術研究費等交付金　研究成果報告書

平成　29　年　8　月　16　日

研究者	氏名：小島　恵		職位：講師
	所属(学科等)：社会学科		
研究課題名	化学物質関連法の体系的整理、水銀条約の発効を見据えての日本と世界の対応、地域からのエネルギー転換事業		
研究年度	平成 28　　年度 から		年度まで
研究費の種類	若手教員研究促進交付金	交付額	500,000 円
研究費の種類		交付額	円

研究概要等

【研究概要】

化学物質のリスク管理についてはいくつもの法律が制定されており、従来からそれらの体系的整理の必要性が指摘されているものの、法学的観点からの検討はいまだなされていない。他方で、ナノマテリアルや内分泌かく乱物質といった新しいリスクが生じてきている。さらに、農薬や殺生物剤といった用途規制と、電気電子機器や化粧品などの製品規制が重複している、あるいは規制の抜け穴が生じているといった問題もある。こうした問題意識から、化学物質関連法を法学的観点から整理しなおすのが平成 28 年度の研究テーマであった。今年度は化学物質法制研究会において日本の化学物質審査法・農薬取締法・欧州の REACH 規則を対象とし、重要と思われる項目（適用対象・管理措置・評価項目等）を選定し、比較対象表を作成した。これによって、日本の法制度が情報共有という点から特に課題が多いことが明らかになった。

並行して、高懸念物質への対応状況について、REACH 規則の最新の運用状況を調べることで欧州と日本の相違を明らかにした。

水銀条約の対応状況について現地調査にいくことは時間的な制約からできなかったものの、国内の対応措置については文献収集を進めることができた。

地域からのエネルギー転換事業についても現地調査に行くことはできなかったものの、国内外の文献収集はかなり進めることができた。これらの成果を次年度につなげていきたい。

【学会発表、書籍収録等】

化学物質法制研究会の研究成果については平成 29 年の環境制作学会において代表者が報告を行った。

高懸念物質の管理状況について、国立環境研究所と早稲田大学が行なっている「安全・安心ワークショップにおいて報告をおこなった。

「2006 年以降の EU 化学物質関連法の改正動向」が環境省委託調査報告書に収載された。

平成 28 年度　学術研究費等交付金　研究成果報告書

平成 29 年　9 月　8 日

研究者	氏名：ノルドストロム　カール　ヨハン		職位：講師
	所属(学科等)：国際教育学科（新学科準備室）		
研究課題名	日本初のトーキー映画製作所であるピー・シー・エル（Photo Chemical Laboratory）の歴史的展開と昭和初期に興隆する「モダニティ」という概念と、それに付随する大衆文化についての考察		
研究年度	2016　年度 から　2016　年度まで		
研究費の種類	若手教員研究促進交付金	交付額	500.000 円
研究費の種類	学術研究費	交付額	250,000 円

研究概要等

【研究概要】

本研究は戦前の東京を拠点とした「映画製作所 P・C・L」の発展についてである。無声映画からトーキー映画への移行は、映画史における最も重要な出来事である。本研究は、日本初のトーキー映画製作所であるピー・シー・エル（Photo Chemical Laboratory）の、1933 年から 1938 年における歴史的展開と、同社製映画の特徴を分析し、昭和初期に興隆する「モダニティ」という概念と、それに付随する大衆文化の形成を考察する。

映画は、大量生産による経済と消費社会において、既存の伝統や価値を覆す新進の文化産業であった。1920～30 年代にかけて、日本の映画産業が飛躍的に発展し、人々の娯楽の中心となり、「モダニティ」の形成に果たした役割に注目する。

やがて日本を代表する映画会社である東宝に発展する P・C・L の作品群が日本映画界に与えた影響は多大である。当研究は、国内でも先行研究が少ないこの史実に着目し、散逸しがちな資料を再構築し、国際的且つ学際的論考を試みるものである。

東宝前史に特化した研究ではあるが、幅広い社会的な問題について検討する（研究計画参照）。世界共時的な風潮であったモダニズムの時代を通して、映画に携わる日本人達が、いかに国外の流行に連動し、そこで制作された作品がどのように日本と西洋を繋ぐ架け橋になったかを検証する。これは、戦前から現代へ続く大衆文化の起源を探ることでもあり、映画という大衆娯楽のメディアを介して、日本のポピュラーカルチャーの独自性と国際性へ関心と理解を深めることに寄与する。

応募者はこの半年の間では、特に P・C・L が 1930 年代半ばから日本映画界の製作制度、いわゆる映画プロダクション・システムにどのような影響を与えたかを資料調査研究して来た。この研究結果は今論文にまとめ中である。または「サウンド版映画」と言う初期サウンド映画の一つ種類（音楽とサウンドエフェクト付のサイレント映画）のスタイルや製作史と産業史について紙資料で調査を行った。この研究結果にも、国際出版する予定論集のため今論文にまとめ中である。

【学会発表、書籍収録等】

国際学会発表：「Diamonds of Toho」

2017 年 6 月 8 日、XVI 回 Kinema Club 学会